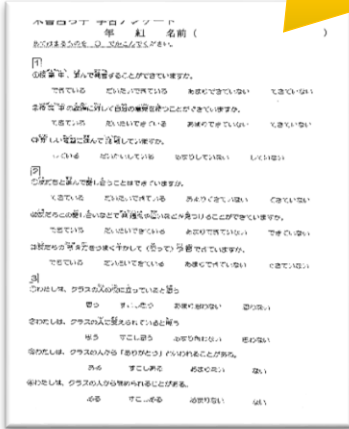


環境・調査研究部

本年度の取り組み

児童の実態調査アンケートの実施



階段掲示の作成（本校児童の苦手意識をもつ分野への対策や意欲向上の両面から考えて。）



算数体験コーナー作成
(学習への意欲面の向上にむけて。)



低学年：かたちあそび



中学年：重さ



高学年：面積、算数面白問題

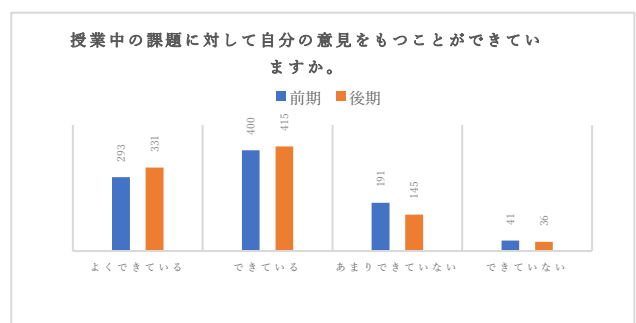
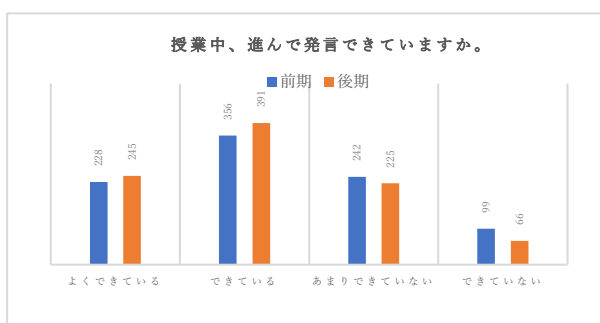
成果

・実態調査アンケートで児童の実態を捉えることができた。

アンケートの結果を受けて、本校の児童の特徴として特に顕著な点は以下の通りである。

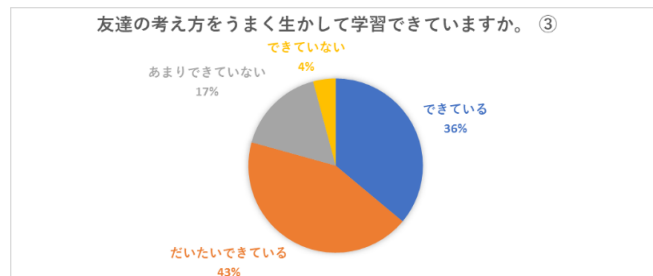
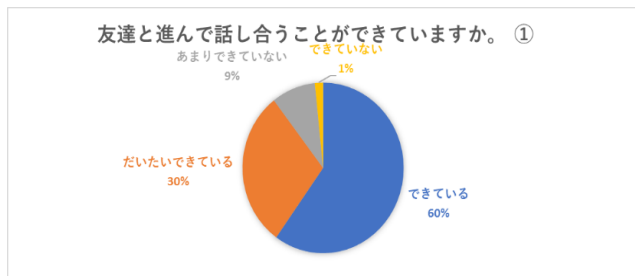
【仮説1に関する調査項目について】

・約7割の児童が「授業中進んで発言できる」と回答しており、前期に比べ、4%上昇している。また、約8割の児童が「授業中の課題に対して自分の意見をもつことができる」と回答しており、前期に比べ、5%上昇している。いずれの結果からも伸びが見られる。しかし、自分の意見をもつことができる児童に比べ、意見をもっていないが発言できない児童が約1割おり、そういった児童への具体的な手立てを研究していく必要がある。「難しい問題に進んで挑戦できる」項目は前期、後期ともに変わらず、約8割の児童が「できている」と回答しており、更に伸ばしていく手立てを研究する必要がある。



【仮説2に関する調査項目について】

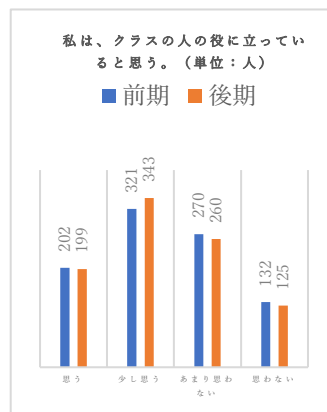
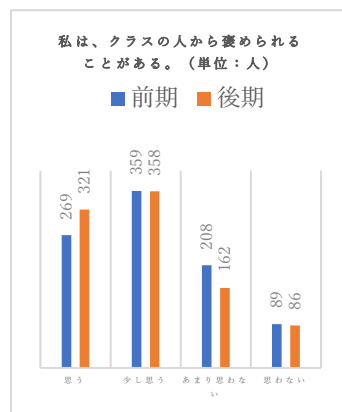
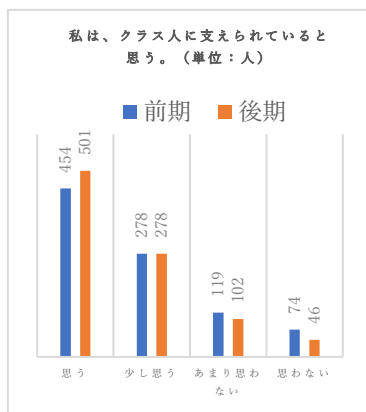
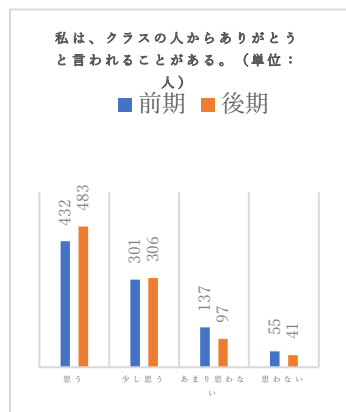
・約9割の児童が進んで話し合うことができていると回答。特に“できている”と回答する割合が大きい。しかし、『友達の考え方をうまく生かして学習できていますか。』という項目では“できている”と回答する児童が少ない。このことから、児童は話し合うことについては好きだが、友達の考え方を生かす学習については、苦手意識があると考えられる。授業研究部等との連携を通して、来年度に向けて具体的な改善方法や手立てを検討していく必要がある。また、これらの項目の調査については、前期・後期で大きな変容が見られなかったため、「できている」と回答する児童が増える手立ても研究していく必要がある。



【自己有用感について】

・本校研究テーマ『子どもの心が動き出し、お互いの考えや思いを尊重し、深い学びを生み出す授業を目指して』において主体性や学び合いの観点から、自己有用感に関する項目を調査。

『私は、クラスの人から「ありがとう」と言われることがある』という項目については「思う」と回答した児童は前期と後期を比較すると5%の上昇が見られた。また、『私は、クラスの人に支えられている』という項目について「思う」と回答した児童は比較して5%の上昇。『私は、クラスの人から褒められることがある』という項目については「思う」の回答は6%の上昇が見られた。本年度の研究の取組を受けたアンケートの結果から児童の自己有用感を構成する“承認”の意識（他者や集団から、自分の行動や存在が認められているという状況）の変容が見られた。しかし、『私は、クラスの人役に立っている』という項目では大きな変化は見られなかった。この点についての意識を高めよりよい学習活動、学級経営につなげていくことが課題となる。



〈その他〉

- ・算数体験コーナーの作成について、夏季休業日の研修時間を生かし、2・3学期までの体験コーナーを作成したことで計画的なコーナー設置を行うことができた。
- ・階段掲示の内容及び設置場所を検討し、計画的に作成、掲示を行うことができた。

課題

- ・アンケート内容の再検討。(今年度のアンケート結果に基づいた内容の検討)
- ・今年度のアンケート結果を受けて、他研究部との連携事項を検討。